

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	147190173	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地	(〒238-0311) 横須賀市太田和 2-10-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 面会や行事、一口メモ、電話等を通じての家族との連携
2. 一人一人の生活ペースにあわせた支援
3. できることはできるだけ本人にさせていただき、自律感を感じて頂く
4. 散歩、日光浴、体操などの健康増進と楽しみな食事で入居者が元気である
5. 職員が資格取得に向けて勉強会や研修会に積極的に参加している
6. 職員の離職率が低い

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9 階		
訪問調査日	平成28年 1月 28日	評価機関 評価決定日	平成28年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所はJR横須賀線の逗子駅、衣笠駅、横須賀駅、または京浜急行の新逗子駅、横須賀中央駅からバス便がある。いずれも太田和バス停で下車、徒歩7分である。2,400㎡と広大な敷地に、リゾートホテル風の鉄骨造平屋建ての建物である。居室は約8畳と広く、中庭では桜の花見や日向ぼっこが楽しめる。隣接地に同一法人が特別養護老人ホームやデイサービスなどを併設している。</p> <p>【理念に沿った運営と人材育成】 ホームのケア理念は、「1.見逃さない 2.見捨てない 3.諦めない」の頭文字「MMA」を掲げている。運営に当たっては、毎月の全体研修で「月次目標」を話し合い、理念の実践に取り組んでいる。法人、ホーム長ともに人材育成に熱意がある。事業所は職員の経験・力量に応じた研修や資格取得の支援をしており、モチベーションアップを図っている。これにより経験豊富な職員が揃い、離職率が極めて低い。</p> <p>【医療連携・看取りと災害対策】 協力医の往診が週1回あり、看護師が週1回健康管理に訪れている。医療連携では24時間看護師とのオンコール体制がある。利用者が終末期を迎えた場合は、利用者や家族の意向に沿ってターミナルケアを実施している。消火、避難訓練を年に2回実施し、食料と飲料水などを備蓄している。また、法人が町内会と「相互防災協定」を結び災害時には備蓄品や施設の利用を取り決めている。</p> <p>【利用者の暮らしぶり】 町内会に加入しており、老人会の招待をうけたり、正月には獅子舞がホーム内に立ち寄ってくれる。隣接する同法人の特別養護老人ホームでは、地域の夏祭りが開催され、利用者はそれに参加している。また、車いすダンスや太鼓、オペラ等のボランティアの来訪がある時には、一緒に楽しんでいる。近隣の幼稚園児も時々来訪する。利用者は、月の行事や歌唱、体操、ボール遊びなどのレクリエーションを楽しみくつろいでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者およびその家族の思いを踏まえた理念を、事業所内研修や施設内掲示で確認しながら実践している。	ホームの理念は、実践的で分かり易い「1.見逃さない 2.見捨てない 3.諦めない」の頭文字「MMA」を掲げ、その人のできることを積極的に引き出し、心豊かな生活ができるよう、その人らしさを尊重し日々の生活を支援している。運営に当たっては、毎月の全体研修で「月次目標」を共有し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解して頂いている。また日常生活においても散歩や買い物、回覧板、地域行事などを通じて交流を深めている。	小和田町内会に加入し老人会からの招待がある。正月には獅子舞が立ち寄ってくれる。町内会の盆踊りが、隣接の同一法人特別養護老人ホームの敷地で開催され参加している。同特養には、車椅子ダンス、太鼓、オペラ、マジックのボランティアが来るので一緒に楽しんでいる。近隣の幼稚園児の来訪や、福祉医療専門学校の実習生、認知症介護実践者研修、中学生の職業・福祉体験実習を受け入れている。ホーム長が系列デイサービスで、地域住民を対象に認知症ケア・予防などを講演している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所会議や高齢者シンポジウムにおいてとりくみの発表を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者等に参加して頂き、施設の状況報告への意見や参加者からの地域情報など施設ケアの参考にさせて頂いている。	運営推進会議は利用者家族、老人会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。市職員は年に1回参加している。運営・行事報告、介護保険制度改正の情報交換などを行っている。外部評価結果も報告し、家族、職員にも開示している。出席率は良かったが、昨年度は4回しか開催できなかったため、次年度は開催日を調整し、2ヶ月に1回開催する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所説明会や実施指導等により、意見交換や指導を仰いでいる。	横須賀市福祉部介護保険課には、事業所説明会、変更届などの指導を受け、研修にも参加している。地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に出席して頂き助言をもらっている。日本認知症グループホーム協会に加入し、研修に参加し情報を入手している。かながわ高齢者福祉研究大会、かながわ福祉サービス大賞に参加して、研究発表している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修などで学習しており、身体拘束について十分理解しておりケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないことを契約書や重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。年1回職員研修を行っている。玄関は職員の見守りで安全を確保し、夜間のみ施錠している。利用者は玄関先や中庭で外気浴をしているが、不意の外出はない。買い物などの希望者には職員が付き添っている。転倒防止のため、離床センサーを利用している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で常に確認しながら防止に努め、部内研修でも学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部内研修で学習しており、業務上役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解や納得を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議で話し合う機会を設け、また普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。意見箱を設置している。	家族会、敬老会、運営推進会議、餅つき大会などの行事では意見を聞く機会を設けている。家族の来訪が多く、要望等は直接聞いている。家族が利用者に「笑顔がない。」などと感じた時は、職員に報告してくれるなどの信頼関係は築けている。利用者の生活の様子は、支援経過記録で家族に説明している。行事のアンケートを取ったり、外部評価の結果を配布している。毎月、職員の手書きの手紙で生活の様子や行事などを家族に郵送するほか、4半期ごとに法人全体の「椿だより」も郵送している。	来訪の少ない家族には、利用者のきめ細かい状況報告（献立や外出など）を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会で機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話せる機会があり、意見や提案もできる環境にある。	毎月、全体研修会議とユニット会議で意見・提案を聞き運営に反映させている。ホーム長は全体会議で、業務の質や意欲の向上、勤務体制、資格取得の環境整備（支援や昼間の研修）などについて、意見や提案を聞き、モチベーションアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修や勉強会を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加し、交流の機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人と面接の機会を持ち、話を伺う機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至る前にご家族との面接を持ち話を聞く機会をつくり、本人や家族への要望や悩み事を傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話し合いのなかから必要としているサービスや支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除洗濯等の家事をやったり、お話や散歩、買い物などを通して両者の信頼関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもお願いできることはしてもらい、散歩や受診、餅つき等の行事への参加等、手伝ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようになっており、家族や友人が来たり、外出も家族同伴で自由にできる。買い物の帰りに本人の馴染みの場所をドライブもしている。	利用者が高齢化しており、来訪者は家族が中心であるが、友人、知人の来訪もあり湯茶の接待をしている。ホーム内では2ユニットの合同行事により交流を図っていて、家族の参加も多い。中庭でも自由に談笑している。花見、買い物、外食には馴染みの場所を選定している。利用者にとっての「安住の我が家」は、このホームであり馴染みの職員である。毎月の家族あての手紙や電話の取次ぎは職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人を理解し、お互いの関係を把握し、また孤立せずにお互いが支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合、その後も行事への招待を家族へ行い、できる限り相談や支援を続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の活用や本人・家族へ意向を確認している。意志表示の難しい方には、日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心がけている。	入居希望者には見学を勧め、入居前に本人・家族に面接し、思いや意向を把握している。初期のアセスメントはセンター方式で確認し、カンファレンスで共有している。利用者3人1組の職員の担当制をとり、個々の意向を把握し、カンファレンスで話し合い、介護計画に反映している。意志の把握が難しい方は、家族に相談したり、日々の様子から把握に努めている。衣替えは家族が対応している。リビングの座席の配置は、利用者の人間関係に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や本人・家族へ聞き取りを行い、サービスの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の日常生活の中で確認しながら心身及び総合的に現状を把握するよう努めている。体力低下が見られる方は静養していただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・計画作成者を中心に皆で話し合い、取り組んでいる。	職員は、介護計画と連係した支援経過記録を記載しており、ユニットチーフが毎日確認している。職員の記帳方法にバラツキがあるので統一を図りたい。毎月のカンファレンスで担当職員の意見を聞き、計画作成担当者がモニタリングしている。6ヵ月ごとに介護計画の評価を行い、医師・看護師の意見を取り入れて、介護計画を見直している。心身の状態に変化があれば随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援・経過記録の他、医療ノートを用いて個別記録に記入し、職員全員で実践し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化した為家族の意向で法人内部の事業所（特養）へ移動された方もいた。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りに参加し皆で楽しんでいる。また回覧板を入居者と近隣へ持っていくことで交流を図っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族協力のもと適切な医療を受診できるように支援している。 往診には内科・歯科・眼科・精神科を受け事業者との関係を築いている	入居前からの主治医に受診している方が数名おり、その他の方は協力医を主治医としている。協力医、歯科医の往診は週1回ある。眼科と精神科は必要に応じて往診してくれる。また、医療連携体制により看護師の24時間オンコール体制があり、看護師は週1回健康管理に訪れている。各医師の指示等は「ドクターノート」に記載し、介護計画に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療ノートや電話対応により入居者の相談を24時間できる体制をもっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合には、家族と協力しながらできる限り面会し病院側からの情報を得ている。また退院へのアプローチも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・かかりつけ医との繰り返しの話し合いや、終末期意向アンケートを用いて全員で方針を共有している。	「看取りに関する指針」があり、入居時に重要事項説明書とともに説明し、同意書を受領している。終末期を迎えた場合は、本人と家族の意向に沿い、医師及び医療機関と連携を図りながら、看取りまたは入院支援が行われている。これまでに7名を看取り、特別養護老人ホームへの転居者4名、2名の入院支援を行った。亡くなられた後に「偲ぶ会」を行い、振り返りの研修としている。職員のメンタルケアは、ユニットチーフが行っている。看取り研修は、「ターミナルケア・精神的ケア対応マニュアル」に基づき定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、その都度研修も行っている。緊急時にあわてないよう、緊急連絡先のある場所は誰でも分かるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体やグループホーム内研修において訓練を行い、特養からの協力を得られよう連携をとっている。しかし地域との正式な協力体制はできていない。	年に2回消火・通報・避難防災訓練（夜間想定）を隣接の特別養護老人ホームと合同で実施しており、そのうち1回は消防署が立ち会っている。職員が近隣に多く住んでいるので災害時に参集しやすい。近隣住民にも参加の声掛けしている。また、法人が町内会と「相互防災協定」を結び、災害時には備蓄品や施設の利用を取り決めている。一時避難先は、周辺小学校である。海辺に近いので、近隣の小高い公園に避難する計画をしている。食料・飲料水の備蓄は、特養の倉庫に3日分と、プロパンガスとコンロなどが保管されている。敷地内に貯水槽が設置されている。	備蓄品の在庫管理は法人に依存することなく、当該事業所職員による自主管理を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーや尊重した言葉かけや対応をしている。	人格の尊重とプライバシーの確保は、運営規定、契約書などの運営方針に明記されている。認知症である以前に一人の人間として、されて嫌なことはしない。排泄の際の声掛けやトイレのドアをきちんと閉めるなど、基本的なことは日常のケアの中で注意している。人権擁護や虐待防止の研修を継続して行っている。また、入職時研修で個人情報の保護を学び、個人情報に係る重要書類は、事務室の書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度確認したり説明をして本人が決められる様な工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、都度確認をしたりして、本人の希望に沿うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時・行事等では衣服の選択や化粧などの支援を行っている。理髪店の出張サービスによりヘアカットしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必要に応じてメニューを変更したり、誕生会等では事前に好みを聞きメニューを考えている。支度や片付けもできる範囲で一緒に行なっている。	利用者の希望を聞いて、職員が献立を作っている。食材は宅配とスーパーマーケットで調達している。職員が調理し個々の食形態（ミキサー、とろみ食など）に合わせ提供している。味噌汁が嫌いな方には、代わりにカップラーメンを出すなどの工夫をしている。誕生会では本人の希望を聞き寿司をとることがある。外食は近隣のファミリーレストランやラーメン店に出かけている。利用者は、調理の下ごしらえなど出来ることを手伝っていた。リビングでは車いす利用者も椅子席に移乗し、背あて、座布団、足台で座位を調整している。職員は利用者を介助しながら、同じテーブルで検食している。栄養バランスやカロリーチェックは特養の管理栄養士に依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量は一人一人に合わせている。また状況に合わせて補食も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食毎の口腔ケアを行い必要に応じて職員の補助を行っている。また歯科受診を受けている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用を続けており、時間をみながら声掛けを行っている。	排泄が自立している方は1名であり、他の方は介助が必要である。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。表情や仕草での排泄のサインを見逃さないようにしている。これらの取組みでおむつ、リハパン等の交換が減ってきた。トイレはユニットごとに5ヶ所あり、内2ヶ所は車いす対応可能である。1ヶ所には男性用トイレも併設している。肘掛、手洗い、ペーパータオル、ウォッシュレット、ヒーター、エアクリナーを備えている。排便コントロールは医師の指示により、ヨーグルトなどで調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩・食事やヨーグルト・乳飲料・オリゴ糖などを活用している。排泄時ウォッシュレットを使って刺激したり、腹部マッサージもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望に沿うように入浴できるよう支援している。シャワー浴や足浴対応も行っている。	週2回入浴しているが、見守りだけで入浴できる利用者は、入浴回数を増やすなど柔軟に対応している。浴槽はそれぞれのユニットにより異なり、一般的なユニットバスと、檜風呂にリフトを設置したユニットバスがある。浴室、脱衣室にはエアコンが設置され、菖蒲湯や柚子湯など、季節感を楽しんでもらっている。入浴を好まない方はいない。同性介助は要望があれば対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室で休め、リネン交換・空調機・湯たんぽの使用等、安眠できるようにしている。ベッドに限らずソファでも休んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用、量等をラックに記してあり、また各薬の担当を決め職員が十分理解し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、ドライブ、散歩や歌、カラオケなど行っている。 法人の隣接する事業所で習字を習っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、少人数制による外食、買い物、家族との外出や施設行事での外出・外食等で楽しんで頂いている。	天気の良い日には、花見のできる公園などを散歩している。散歩が困難な利用者は、広い中庭で外気浴をしている。春は八重桜や、しだれ桜の花見ができる。外出行事は、春の花見、夏は町内会の盆踊り・花火大会、秋はミカン狩りが企画されている。少人数対応としては、外食のほか、湘南国際村、ソレイユの丘、三浦海岸の河津桜、あじさい見物などに出かけている。系列デイサービスの送迎バスを利用することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人で金銭管理をしている方はいない。 買い物の際も職員が代行して、本人の目の前で支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りでは代筆という形で書いたりもするが、書ける方には本人に書いていただき、電話をかけたい時にはかけられるように支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い建物・土地と静かな住宅地ということで生活環境は良いと思われる。	ユニット玄関に入ると来客用の応接スペースがある。建物中央部には、桜の花見、日向ぼっこが出来るテラス、餅つき大会などを開催する広大な中庭と、居間・食堂・キッチンが配置されている。居室は居間を取り囲むように配置され、利用者が生活しやすい間取りになっている。居間・食堂は明るく清潔で、テレビやテーブル、椅子などが置かれている。居間に接して掘りごたつのある畳部屋がある。天井が高い回廊には、ボランティアの絵画教師が寄贈した絵画が美術館の様に陳列されており、行事の写真、ちぎり絵、塗り絵などが多数展示されている。利用者はリクリエーションを楽しみ、居心地よく寛いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下のソファ、玄関先のベンチ・リビングのソファなどでくつろげるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で本人や家族でレイアウトされたり、なじみの物を置かれている方もいる。(花や仏壇など)	居室は8畳で広く、障子戸が入っている。エアコン、換気扇、照明器具、洗面台、クローゼット、ナースコールが備え付けられている。自宅から使い慣れたベッド、テーブル、イス、テレビ、整理タンス、家族の写真、加湿器などを持ち込んでいる。居室には、ぬいぐるみや敬老会、誕生会の写真が飾られている。下肢の不安定な方は、離床センサーを置いている。また、褥瘡用の体位交換マットを使用されている方もいる。室内は整理整頓され清潔であり、利用者は居心地よく暮らしている。居室は洋間の他、和室が3室ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車イスも使用でき、手すりや部屋毎の表札、トイレや風呂の表示もされている。		

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者及びその家族の思いを踏まえた理念を施設内研修で確認し共有しながら実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解していただいている。また日常生活においても散歩や買物地域行事、回覧板を届けるなどを通して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習を通して地域の子ども達に認知症を身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。また地域の方々には、認知症についての話をする機会を設け、理解していただけるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者に参加していただき、施設の状況報告に対し意見をいただいたり、参加者からの地域情報などを施設ケアの参考にさせていただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所説明会や運営推進会議実施指導により、意見交換や指導を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修などで定期的に学んでおり身体拘束をしないケアについて十分理解していると思われる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で定期的に学んでいるため、十分理解していると思われる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいるため必要に応じ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解、納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議で話し合う機会を設けているが、普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作るよう心がけている。また意見箱の設置もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内研修で意見を言う機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話すことができ、意見や提案をできる環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修等を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年間を通じて、内部・外部研修や会議などを積極的にすすめる、施設職員及び外部関係者が共に向上出来るように取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面接時間を持ち、話を伺う機会を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接の時間をとり家族の要望や悩み事を傾聴する機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としているサービスや支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除、洗濯等の家事を行ったり、買物や散歩などで信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に受診、衣類の入れ替え、行事の後片付けなどをお願いし共に入居者を支えていく関係を築くよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようにしているため家族が気軽に面会にいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に寛げるように関係の把握と孤立することのない様に声かけしお互い関わり合い支え合いができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた場合は行事などでご遺族を招待し出来る限りその後の関係も保つ様努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一部センター方式を活用し本人に確認、及び家族に伺ったり、意思表示の難しい方には日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一部センター方式を活用し、本人及び家族から聞き取りを行って経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の毎日の生活の中で確認しながら、心身及び人間関係など総合的に把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、ケアワーカー、本人、家族等と話し合い、介護計画を作成し定期的に評価している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録、医療情報ノート、ケアプラン実施記録などの個別記録の記入により情報共有を計りながら実践や見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パッドなど市の支給を申請している。また出張美容サービスを利用している。広い空間を活かし、入居者がプライベートな時間を大事に出来るよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特になし。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科の往診を受け、また家族付き添いでかかりつけ医に受診する方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは業務日誌、看護記録、電話などにより24時間相談対応の体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、職員が頻回に面会し病院関係者からの情報を得ながら、早期退院へのアプローチを心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一年に一回少しずつ終末期のことを考えていただけるように書面を渡し家族と本人の話し合いをもっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。応急手当の訓練は不規則である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内研修で定期的に訓練を行っている。又、法人の特養とも連携をとり、災害対策に備えており、災害時の協定を結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。記録などはファイルに閉じ管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人に確認したり、説明を行い自分で選択し決めることが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしながら、その都度確認しながら、本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時、行事などでは身だしなみを整えたり、おしゃれができるよう支援している。また出張美容院を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんどの方が楽しみにしている。一緒に準備をして、食事をしたり片付けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量を一人一人に合わせ出すようにしている。アルコール類を好まれる方は行事等を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には口腔ケアを行い、口腔内の衛生、義歯の清潔管理に努めている。うまくうがいが出来ない方には歯磨きシートを利用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助が必要な方は一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導し排泄できるよう努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージなどに取り組み、また繊維質の多い野菜、牛乳、オリゴ糖、果物の摂取にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望通りに入浴できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも清潔な寝具で休めるようにリネン交換やベッドメイキングには気を配っている。布団干し、エアコン、湯たんぽ等も活用し安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的、用法、用量を職員が十分理解したうえで服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、外気浴等で気分転換をしていただいている。また、夕方廊下の電気をつける、毎朝日めくりカレンダーをめくる等役割を持てる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、外気浴、家族との外出を楽しんでいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を所持していただいている。何か買いたいものがあるときは、預かり金から必要額を出す時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の入居者は携帯電話を持っているため、自由に家族にかけたり、親しい友人からかかってきて話をしている。施設から毎月お便りを出しているが、書ける方には書いていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静な住宅地にあり落ち着いて過ごせる環境にある。建物全体が広く造られているため圧迫感もなく、生活環境は良好と思われる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファーやいすがあり、一人になったり気の合う仲間と寛げるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の好みで自由にレイアウトされている。使い慣れた物を配置されている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車椅子も安全に使用できる。手すりもあり歩行が不安定な方も自力歩行がしやすくなっている。各居室には表札を設置し、トイレ、浴室も分かりやすく表示している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 平成28年4月25日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	来訪の少ない家族には、利用者のきめ細かい状況報告（献立や外出など）を期待します。	毎月、利用料の請求書とともに、近況報告だよりを同封しているが、今後は広報誌やホームページ等で日々の出来事も報告しながら来訪回数が増えるよう努力したい。	定期的なご家族向けの広報誌の発行とホームページの充実を図っていきます。	平成28年4月～平成29年3月（1年間）
2	35	備蓄品の在庫管理は法人に依存することなく、当該事業所職員による自主管理を期待します。	備蓄品の在庫管理は、当該事業所の管理者が行う。	備蓄品の管理表を作成し、半年ごとに管理者がチェックする。	平成28年4月～平成29年3月（1年間）
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。